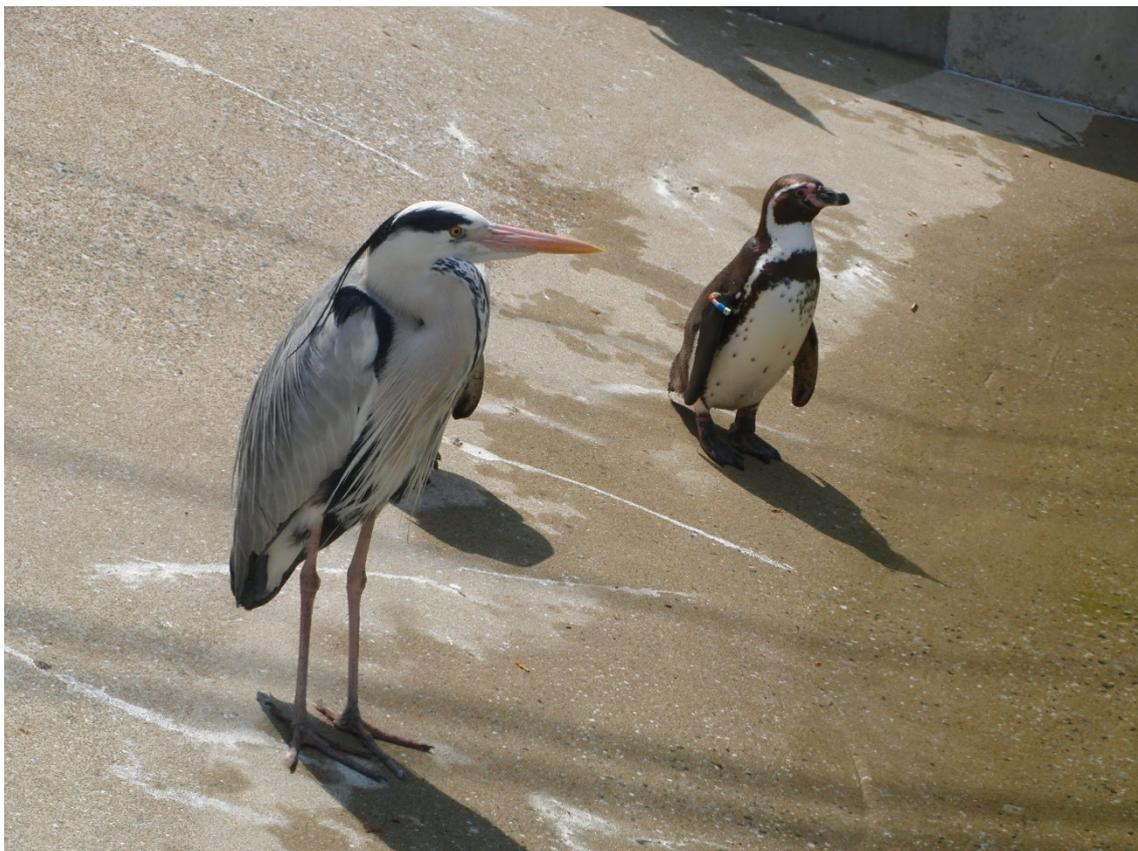


作品 No.104



生きものの“つぶやき”:

「ペンギンだから！」

エッセイ:

動物園で飼育されているペンギンの横に平然と並ぶ野生のアオサギ。自分をペンギンだと主張しているかのように見えます。自分で餌を取らなくてもよいペンギンが羨ましいのでしょうか。体を折り畳んでペンギンに擬態しているサギが面白くて写真を撮りました。自分で餌を取らなくては生きていけないサギと何もしなくても餌を貰えるペンギン。しかし、サギには自由がありますが、ペンギンには自由がありません。どちらが幸せなのでしょう。人に飼われている動物と野生動物について考えさせられました。(232字)

生きものの紹介:

「アオサギ」日本で繁殖するサギの仲間の中では最大。日本では留鳥。

「フンボルトペンギン」温帯性気候のペルー、チリの海岸及び沿岸の島に生息。野生では餌となる魚類の乱獲、エルニーニョ現象等の環境変化によって個体数が減少している。

撮影場所・日時:

福岡市動物園・2020年4月3日

応募者の自己紹介:

1. 渡辺菜月／お茶の水女子大学附属高等学校2年
2. 所属：無所属
3. 将来の夢：カラスの研究者

審査委員会からのコメント

ペンギンとアオサギとの対比、飼育されている動物と野生の動物を比較した視点がすばらしい。フレーミングも絶妙です。